

県士会 ニュース

No.
217
[2022.10]



Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

Contents TOPIC 2 申込みはお済みですか？もうすぐ第5回神奈川県臨床作業療法大会の開催です！

- | | |
|---------------------------------------|----------------------|
| 1 巻頭言 | 2 理事会議事録 |
| 5 2022年度6月度理事会 部員承認 2022年度6月度理事会 部員退任 | 5 公益社団法人格取得への道 |
| 6 各部からの報告 | 8 40周年記念事業が間もなく終わります |
| 8 事務局からのお願い | 8 編集後記 |

巻頭言 | 入会者増に向けワーキンググループでいま注目していること ～ 神奈川県OT士会 創立40周年目からのリ・スタート ～



会員増ワーキング リーダー

澤口 勇 (訪問看護ステーション レンゲの花)

理事会では現在、県士会内の諸課題に応じて集中的に検討を行う「ワーキンググループ」を立ち上げており、昨年の10月に標題のワーキンググループが発足され今日まで集中的に話し合いを行っております。そこで皆様にお伝えとお力添えを頂きたいことがございます。率直に申し上げますが、今現在、入会者数の減少傾向がみられます。以下、詳しくお伝えします。

コロナ前のここ10数年間、毎年200名程の入会者数があり2019年度は219名の入会者がありましたが、コロナ元年の2020年度、入会者数は117名までに落ち込みました。コロナ2年目の2021年度は159名までには回復したのですが、コロナ3年目の今年、2022年度6月現在で49名の入会者数しかありません。この数字を理事会では大変重く受け止めております。With コロナがこれまでの習慣を変えてしまいました。そのような状況を個

人的に嘆いていたところ47都道府県OT士会からのご報告で北海道士会より「北海道内はとても広く、そもそもその都度集まるということはできない（例えば札幌から稚内までは特急列車でも片道5時間）。もともと私たちはオンラインでした」というのです。そして入会者数の減少もないとのこと。私はてっきり、今の神奈川県士会の状況が「集まることができないので伝えられない。関係性が希薄となり入会者数の減少が起きている」と思っていたのですが、北海道士会の例から言えば、そうではなさそうです。

では何故か。時代の変化で職場での先輩後輩といったコミュニケーションの減少やその他数々の要因が考えられ、理事会やワーキングでの分析も一筋縄ではいかないのですが、私なりに総括すると「リハビリ職を目指す学生数の減少」「県士会へのアクセス媒体が紙や人づてからSNSに変化」「Z世代の登壇」などがキーワードとなり、X世代の私としてはどうしても今の令和の状況がどこかネガティブにうつる印象があります。しかし入会者から入会動機を伺うと「研修会に参加したい」という理由がダントツなのです。

これまで県士会で行われてきた入会者増に向けた取り組みは「入会歓迎会の開催」や「養成校式典への参加」などがありましたが、今後はさらに検討段階ですが「養成校と連携した取り組み」や「研修会に学生の参加を呼びかけ」「オンラインを活用し年間での研修会開催数の増」等に取り組みニーズを拾い上げます。と同時に各職場においては未入会の方にぜひとも県士会入会促進の声かけをお願いしたいと思います。

申込みはお済みですか？ もうすぐ第5回神奈川県臨床作業療法大会の開催です！

実行委員長 佐藤 隼（さがみりハビリテーション病院）

『地域共生と作業療法』をテーマとする今大会の案内チラシを前号の県士会ニュースに同封させていただきましたがご覧になられましたでしょうか。人とのつながりや生活の多様性をイメージして明るく壮大な印象が伝わるようにデザインしてみました。県内の作業療法士がすでに行っている生活支援の実践や関連職種から見る作業療法士への期待についてお話を聴きながら、様々な領域・病期で働く一人ひとりの作業療法士が縦割りではなく横串を通して自分にできることを考えられる、そんな一日になればと願って準備を進めております。皆さんからも是非、お近くの方々にご案内いただければと思います。

今回の大会はオンライン開催になりますので、インターネット回線さえあればご自宅や職場、外出先どこからでも参加できます。午前中は一般県民の方も聴講できるプログラムになっており、大石医師による認知症の理解と作業療法への期待についてのご講演、横浜市職員と作業療法士が協働した地域支援事業の活動報告、運転免許センターで働く作業療法士からのメッセージを頂戴する予定です。午後は作業療法士向けの内容となっており、自動車運転支援や対象者のニーズを多職種で叶えた事例

報告、地域共生社会における作業療法士の専門性についてパネリストが語り合うシンポジウムです。一日に詰め込むには多少無理のあるタイムスケジュールですが、今この時にこそ伝えたい「地域における作業療法士の可能性」を講師の皆さまのご協力によって実現できることを嬉しく思います。

参加申し込みは大会前日まで可能です。今回はPeatixという申込みフォームを活用しておりますが、操作は簡単で参加費のお支払いやお知らせの連絡がスムーズにできます。参加費は県士会会員 2,500 円、非会員・他職種 3,000 円、一般県民・学生の方は無料となっております。お申し込みがまだという方はこちらの QR コードを読み込んでアクセスしてみてください。それでは 12 月 11 日、ワクワクする作業療法をオンライン上で分かち合いましょう！

第 5 回神奈川県臨床作業療法大会
申込みフォーム→



理事会議事録

★ 2022 年度 第 2 回理事会 議事録 2022.6.16

日 時：2022 年 6 月 16 日（木）19：00～21：25

場 所：オンライン開催のため各自自宅・職場

出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、金山桂（副会長）、吉本雅一（事務局長）、玖島弘規、佐々木秀一、奥原孝幸、佐藤隼、遠藤陵晃、野本義則、神田崇央、佐藤範明、木村修介、望月強併、澤口勇、西川航平、大郷和成（17 名）

欠席理事：戸塚香代子（1 名）

出席監事：錠内広之、野々垣睦美（2 名）

その他出席：藤本一博（第 19 回神奈川県作業療法学会 学会長）

I . 会長より挨拶

本日も組織改編についての意見交換を行います。また本日藤本学会長にもお越しいただいております。

II . 報告事項について（トピックス）

【トピックス】

1. 第 19 回神奈川県作業療法学会 藤本学会長より
第 19 回神奈川県作業療法学会の進捗状況、コンセプトや開催方法等について理事会へ説明。予算については高額になりやすいが今後会場の規模や方法など検討。

III . 審議事項について

1. 後援名義使用について（事務局）
 - (1) 第 41 回神奈川県病院学会に係る協力団体名義使用のお願いについて →承認
 - (2) 第 20 回日本臨床医学リスクマネジメント学会・学術集会 後援名義使用について →承認
2. 新入会員の承認について（事務局） →承認
3. 部員・委員の承認について（事務局） →承認
4. 部員・委員の退任について（事務局） →承認
5. 「心のバリアフリーとリハビリテーションを推進する映画製作」支援について →否認
多くの団体が支援（寄付）しているが当会の有限な財源使用の観点と映画公開における公益性が不十分と判断。

6. 表彰に関する予算変更について →確認承認
予算計上が漏れていたため今年度の予算を調整使用する。
7. 神奈川県地域リハビリテーション三団体協議会委員推薦について →承認
遠藤理事、佐藤隼理事を再任、齊藤氏を新任推薦承認。
8. 地域支援活動助成金事業の実施要綱について
→確認相談 審議はなし
実施要綱の内容について意見交換を行った。特に助成金を交付する方法やタイミングなどが焦点となった。
〈意見交換〉
○幅広い事業を遂行するには資金が必要であるため助成金は先出しで交付できる方法が良いのではないかと
○より多くの任意団体に助成するのであれば適正な審査の上で事業終了後の交付でも良いのではないかと
○助成金は事前に交付される場合もある
○申請書にて団体の活動内容や構成員についての情報を正確に得る必要がある
○SIG 団体については各規程があり結成。助成を行う場合は SIG 団体に限らず募集することには賛成だが、まず SIG 団体に声掛けを行う方法が良いと思う

Ⅳ. 報告事項について (各部署・理事)

【各部署】

1. 事務局
 - (1) メール審議の運用について
メール審議を行う方法と手順について定め説明。基本的には定例理事会での審議を優先し、必要性・迅速性が必要とされる場合に使用する。
 - (2) Zoom 管理使用マニュアルについて
Zoom セキュリティ強化への対応策を作成説明。サインインの方法を変更することとなったため、事前にミーティング予定を事務局で集約。マニュアルを作成し配信済。
2. 財務部
 - (1) 事業費について
6 月 1 日付事業費振込完了。通帳とカードを郵送済み。
 - (2) 2022 年度会計ファイル 予算計画を入力し使用。
 - (3) 会計説明会
6 月末に 2 回実施予定。詳細については改めて案内する。
3. 学術部
学術誌を J-stage に掲載するためのポリシーが決定し 6 月 3 日に公開。オンライン査読については査読委員会にて最終確認を実施中。研究助成事業は事務局との業務内容を見直し中。助成事業の申し込みは受付中。
4. 教育部
 - (1) 日本作業療法士協会 教育部生涯教育制度推進担当者会議について
5 月 26 日 (木) 18:30 ~ 20:30 オンライン開催

出席者: 奥原 (県士会推進担当者)、関口 (教育部員、オブザーバー)

内容: 担当者役割、制度説明、受講履歴登録方法の説明

研修会部署は参加者名簿を各理事が纏めて教育部へ提出。

5. 福利部
 - (1) 表彰について 記念品決定。順次表彰者へ送付。
 - (2) 写真コンクールについて
助成金の申請結果は落選。写真の権利は撮影者に所属し掲載期間内の使用の許可をいただくこととして募集。
6. ウェブサイト管理委員会
 - (1) ホームページ更新 情報の更新について説明依頼。
7. 学会評議委員会
 - (1) 第 5 回神奈川県臨床作業療法大会
進捗状況とプログラムについて報告
 - (2) 第 19 回神奈川県作業療法学会
担当班長中心にフォローアップ中。今後も継続する。

【理事】

1. 田中副会長・神保会長
 - (1) 40 周年記念プロジェクトチームより
プロジェクト進捗、記念特設ページの開設と進捗、ロゴマークの活用に関して、記念誌の進捗状況について説明。各理事へ記念事業の開催を推進していくよう改めて依頼。
 - (2) 選挙ワーキンググループ 代議員選挙に関する報告〈経過〉代議員選挙において定数となり締め切った後、代議員の決定についてホームページ掲載するまでの間に、推薦候補者の届出があった。締め切り後のため受理できない旨、選挙管理委員会からお詫びのメールを送付した。
〈今後の対策〉掲載までのタイムラグが原因だと思われるが、本件を含め代議員選挙については事務局や選挙管理委員会から提出された振り返りをまとめ、次回の選挙までにブラッシュアップしていく。
 - (3) 渉外報告 日本作業療法士会 47 委員会について
診療報酬改定、MTDLP の推進継続、ロボット開発活用、永年会員制度の創設、倫理問題対応、専門職派遣事業、第 56 回日本作業療法学会の参加方法等について説明。協会と県士会でさらなる連携を進めていくことが重要。
2. 遠藤理事
 - (1) 2022 年度 第 1 回地域支援事業への参画推進のためのオンライン研修会について
西川理事、佐藤隼理事、佐藤範明理事、望月理事、札野部員、遠藤理事 (日本作業療法士協会委員) 出席
地域支援事業の現状と OT のあるべき姿や「第 4 次 5 ヶ年戦略 (2023 ~ 2027) と組織再編に向けて」について説明。また、①新委員長、副委員長、新・既存メンバーの紹介②活動方針・事業計画・年間スケジュール、③地域共生社会と作業療法に関する情

報発信、④奈良モデルの紹介、⑤地域包括ケアシステムに寄与するために1700の市町村ごとに作業療法ニーズを捉え参画を推進するためのブロック別グループワークと報告会が行われた。

- (2) 令和4年度第13回訪問リハ・地域リーダー会議
 - I部 同時改定に向けた代表・副代表からのメッセージ
 - II部 同時改定に向けた訪問リハビリテーションを取り巻く政治動向と今後の展開
 - III部 これまでの制度化の取り組みと理学療法士・作業療法士・言語聴覚士へのメッセージ
 - IV部 事前アンケートに対する報告と全体質疑
 - V部 同時改定に向けたリハビリテーション専門職団体協議会訪問リハビリテーション振興委員会の制度要望に向けた取り組みと今後の展開
 - V部-1 令和4年度訪問リハビリテーション実務者研修会要件について
 - ア) 医師との連携強化と在宅医療の推進
 - イ) これからの訪問理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の専門性と役割分担
 - ウ) BCP（事業継続計画）の策定
 - V部-2 令和4年度実務者研修会の開催準備と、令和6年度同時改定に向けた都道府県でできる取り組みについてグループディスカッション
- (3) 県より市町村介護予防事業支援 人材育成事業依頼

対応が困難なため辞退。例年通り神奈川県理学療法士会と協力して事業を行う。

3. 木村理事

- (1) 令和4年度神奈川県介護予防事業ワーキング

木村理事、遠藤理事が出席。

○討議事項 市町村介護予防事業支援のための人材育成事業について
〈ワーキングでの検討事項〉（事務局案）

 - ア) 基調講演について、イ) 好事例の紹介について
 - ウ) 研修方法について、エ) 研修受講者リスト化について
 - オ) 初級編の名称について

○報告事項

 - ア) 令和3年度と令和4年度高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における通いの場への伴奏支援事業について
 - イ) 地域包括ケア推進事業における専門職など派遣状況について
作業療法士に係る事項について以下の2つの検討あり。

※1 令和4年度市町村介護予防事業支援のための人材育成事業（案）
初級編については市民が広く参加できるような内容とすることが必要

※2 令和4年度地域包括ケア推進事業における専門職員等派遣事業
市町村から派遣申し込み状況を共有。目的や

派遣職種、内容については多岐に渡っている

4. 澤口理事

(1) 会員増ワーキンググループ

- ア) 「県士会入会案内や今後の当会主催の研修会開催告知及び宣伝（学会などその他各部で公報したいことなども自由）のPowerPoint資料を広報部が統括して作成運用していくことを検討中 → 理事メールにて理事会との相談を含めて検討し実施
- イ) 「研修会の参加費を1年間無料」「8月までの新入会者につき入会金無料」などのキャンペーンを検討中 → 財務部と財務状況などについて相談

V. 組織改編

1. 意見交換・共有

4グループに分かれ意見交換を実施。司会進行、書記、発表者を決めて、全体会で各グループの内容を共有。理事会で意見交換シートを共有し今後の意見交換にも活用。

2. まとめ

〈神保会長より〉

一つのキーワードから様々な意見交換が行えた。組織を作っていくうえで新しい考えを取り入れて検討していく必要がある。神奈川県士会の強みが多くあることを実感した。次回はさらに具体的なテーマを事前に伝えてより深い議論をしていきたい。引き続きお願いします。

VI. その他 連絡事項等

1. 議事録署名人について

吉本事務局長から指名があり決定する。神保会長、野々垣監事、佐藤範明理事、木村理事。

2. 研修会マニュアル説明会について

研修会ワーキンググループの金山副会長主催で6月下旬から7月上旬に2回実施する。詳細は後日案内する。

3. 監事より

(1) 錠内監事

組織改編の話し合いについてですがテーマに応じた十分な時間や準備が必要だと思います。特徴は良い点も悪い点も含まれます。良い点ばかりを取り上げるのではなく改善するべき点も取り上げて議論していくことが必要だと思います。その点を踏まえて組織改編に引き続き取り組んでください。

(2) 野々垣監事

どの組織も強みは弱みにもなり、弱みを強みに変えることができると思います。事業運営についてはより多くの会員に参加していただきたいと思います。また一部に負担をかけるのではなく皆で上手に分担し行ってください。

以上（文責：事務局長 吉本 雅一）

2022年度6月度理事会 部員承認

【地域リハビリテーション部】

芳賀 吉朗 武田病院
宮本 啓太 横須賀市立うわまち病院

【40周年記念事業 記念誌編集委員（ワーキンググループ）】

渡邊 愛記 北里大学
作田 浩行 昭和大学
出口 弦舞 国際医療福祉大学
石井 有希 横浜リハビリテーション専門学校

【地域リハビリテーション三団体協議会】

遠藤陵晃 横浜 YMCA 学院専門学校（再任）
佐藤 隼 医療法人社団哺育会
さがみリハビリテーション病院（再任）
齊藤 梢 訪問看護ステーション
みのり（新任）

2022年6月度理事会 部員退任

【広報部】

丸井 智子 佐藤病院

【規約委員会】

名古屋 和茂（退会）

【学会評議委員会】

関口 佑（退会）

【福利部】

須崎 可奈子 町田慶泉病院

公益社団法人格 取得への道

↓↓ 会員の方の参加も、もちろん大歓迎です！ ↓↓

11月26日(土) 第2回県民公開講座(参加費無料)開催決定！

～「障害者権利条約 日本初、国連による対日審査8／22・23の結果から学ぶ」～
＝ 神奈川県OT士会 創立40周年目からのリ・スタート ＝

公益法人化対策委員会 澤口 勇

公益社団法人化の作業を進めていく上で大変重要なことは「公益社団法人化することの意義」を会員の皆様と共に考え、共に共有することであり、そのこと無くしては前に進めません。そのひとつの手段として毎号県士会ニュースに記事を書かせて頂いております。

今回は創立 40 周年の歴史から振り返ります。神奈川県作業療法士会は 1981 年（昭和 56 年）に発足。地域の保健・医療・福祉の向上など、主に各会員が所属する医療施設を中心に各会員の自己研鑽を通じた社会貢献に寄与して参りました。神奈川県士会ができた 1981 年はちょうど国連が定めた国際障害者年の年。障害者の「完全参加と平等」をテーマにノーマライゼーションやバリアフリーという言葉もこれから浸透し始めるという頃で、障害者の方がどんどんと社会参加していく、その肩を借りまして作業療法もようやく認識され始めた、駆け出しの頃でした。その後時代は高齢化社会へ。2000（平成 12）年に介護保険がスタート。共生社会の到来が予想される中、作業療法は従来の医療施設中心のケア（医療保険）から高齢者や障害者、現役世代の市民の暮らしをも支えるケアへ対象領域の拡大（介護保険や地域支援事業、障害者総合支援法などへの参画）にシフトチェンジ、それは今日も続いているものと思っています。かつ職能団体としても社会に対して直接ケアに寄与する必要性に迫られ、時を同じくして、当会としても法人格取得へ向けた議論が始まることとなります。

現行の新法人制度の施行は 2008（平成 20）年 12 月に施行。当時すでに公益法人格を持っていた他医療職能団体はそのまま新制度に準じて新公益社団法人格を移行取得され、団体としても地域社会において直接ケアに寄与していくのですが、当会はまだ当時、県内において法人格の取得がなかったため、新制度ではすぐに公益法人格を取得できない法令に準じ、翌年 2009（平成 21）年 4 月、まずは

手順に乗っ取りひとつの団体と認めて頂く『一般社団法人格』の取得から望むこととなります。これを人の成長に例えると、現在の当会の形態は『晴れて成人式を迎え、大人としての仲間入りを認められたのですが、この先どこかの会社に就職する前の段階で、ひとりの一人前の大人としては認められていない』状態です。すなわち『公益性』が会として第 3 者からは認証されていないのです。以前にも記事に書きましたがこの状態から独り立ちさせる作業が公益社団法人格を取得する作業となります。

我々はこれまで医療中心でした。このことは人が生きていく限り続くケアで今後も関与していくのですが、医療で助かった命、得た障害やリカバリーを胸にその先の暮らしまで我々は支えの手を広げていく必要があるのではないのでしょうか。今後当会は一職能団体として「ひとりの一人前の大人として、何を果たすべきか」各会員の皆様とも時間をかけて十分に論議し決めていかなければなりません。よろしくお願い致します。

11月26日（土）15時よりオンラインにおいて第2回目の県民公開講座を主催します。内容は国連の「障害者権利条約（障害者の権利に関する条約） 日本審査の結果について」です。ここ数年、高齢化社会の到来で世間の話題の中心は高齢者施策に偏りがちなのは仕方ないのですが、創立 40 周年目にして再度、障害者を中心に添えて行います。この原稿は 8 月に書いておりますので対日審査の結果が出る 9 月頃、日本にはどのような総括が国連から下されるのでしょうか。それを重く受け改めて検証しなくてはならないのですが、作業療法は高齢者や障害者といった社会的弱者と言われる方々に対し、人権を守りつつ当事者主体の医療や暮らしが提供できていますでしょうか。講演会の中で今一度点検致しましょう。

各部からの報告

▶ 福利部 40周年企画 第2段「オンライン施設見学会」のご報告です☆

(文責 福利部 金山)

代議員の皆さまのご協力のもと、主に高校生を対象にオンラインで施設見学会を開催しました！ また、主に中学生を対象に「作業療法について知ろう！！」という身障領域と精神領域の2施設をオンラインでつなぐ、総論企画も開催しました。

実際の現場を見るのは難しい昨今ですが、オンラインだからこそお見せできる場面もあり、未来の作業療法士のお力になればたらいと思っております！



▶ ウェブサイト管理委員会 県士会サイト スペシャルコンテンツ紹介

(文責 ウェブサイト管理委員会 佐藤 範明)

県士会サイトでは様々なコンテンツが存在していますが、そんな中でも「スペシャルコンテンツ」が複数あります。今回はその内1つの【ウェブ管的知恵袋】を紹介します。本コンテンツは、毎月最低でも1回以上の更新があり、リハビリテーションに関連するニュースのまとめ・リハビリテーションに関連する学会・研修会情報を掲載しています。

日々仕事で忙しい中でリハビリに関連するニュース

や学会関連を調べるのは意外と労力が必要なお仕事だと思います。本コンテンツを覗くことで、各自ニュースや学会など一目で確認できますので、定期的に確認いただけたらお役に立てることと思います。

ニュースは月毎、学会に関してはおおよそ2ヶ月後の情報を掲載しているため、ぜひ一度閲覧してみてください。

図) 【ウェブ管的知恵袋】スペシャルコンテンツ 閲覧方法 (スマホ Ver.)



▶ 学術部

スキルアップ研修会「OBP2.0の実践のススメ」を開催しました

(文責 中黒 早絵)

7月の学術部主催のスキルアップ研修会は、吉備国際大学の教員で認定作業療法士の寺岡睦先生より、『OBP 2.0 実践のススメ』について講義して頂きました！ OBP2.0 は作業機能障害の種類と信念対立解明アプローチを統合した作業療法理論であり、評価から実践に至る内容を丁寧にわかりやすくご講演いただきました。今回の研修会の参加者は、神奈川県のみならず愛知県や北海道など様々な地域から、多くの方が参加して下さいました！！

講義を通して、OBP2.0 はクライアントを含め、家族や医療スタッフが丸となってアプローチしていくことのできる貴重なツールである事が分かりました。

最後に OBP2.0 をより学びたいという方は「OBP2.0 の実践を支援するための無料ツール」について情報公開して下さいますので、合わせてそちらもご確認ください！！早速私も臨床で活用してみたいと思います！！

自己紹介

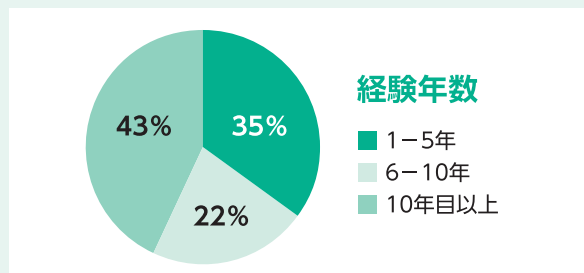
- ・寺岡睦（てらおか・むつみ）
- ・1989年高知県生まれ
- ・作業療法士、博士（保健学）、認定作業療法士
- ・吉備国際大学
 - ・教育：人間と作業、作業療法評価学、身体障害作業療法、作業療法研究法
 - ・臨床：急性期の整形外科疾患、老年期障害、地域作業療法
 - ・研究：OBP2.0、作業機能障害、信念対立解明アプローチ。質的研究、量的研究、理論的研究は一通り可
- ・研究論文約20本、書籍5冊

信念対立の構造

- ・信念対立とは何か
- ・対立には必ず信念がもたらす
- ・2つ以上の考え方、感じ方、やり方がせめぎあう状態である
- ・信念対立は、私と他者の間で生じることもあれば、自分自身の中で生じることもある
- ・原理的に、信念対立がゼロになることはない



— 講義の様子 —



— 参加者の内訳 —

講師の寺岡先生、そして参加者の皆様におかれましてはありがとうございました！

『作業療法士としての評価と介入の心構え・専門職としての成長』を開催しました。

(文責 加世田 翼)

令和4年6月12日の学術部主催スキルアップ研修はZoomによるオンラインセミナーで開催され大変多くの方が参加して下さいました。今回は作業療法士の丸山祥先生をお招きして、「プロフェッショナルな作業療法士とは何か」「作業療法の楽しさとは何か」を改めて学べる講義をして頂きました。

講義は座学と参加者2〜3人でのグループワークが組み込まれ、議題に対してお互いの意見を話し合う事ができるような講義でした。私自身も臨床10年以上経ちますが、改めて作業療法士としての自分の価値観や大事にしている事を考える良い機会となりました。

また、丸山先生が取り組んでいるクリニカルリーズニングの評価尺度（A-CROT・SA-CROT）の説明もして頂き、今後、臨床や教育の場で活用していければと思います。

学術部のスキルアップ研修班では、今後も知識のアップデートができるような研修を企画しておりますので是非ご参加下さい。

プロフェッショナリズムは、作業療法士・クライアント・作業療法専門職に貢献し、これらは仕事の満足にも正の影響を与える

プロフェッショナリズム	作業療法士のため	倫理的実践 Ethical practice 個人的な満足 Personal satisfaction 代弁のスキル Advocacy skills	仕事の満足度の向上
	クライアントのため	有能なサービス Competent services クライアント中心の実践 Client-centred practice	
	作業療法専門職のため	リーダーシップ Leadership 信用 Credibility 専門職開発 Development	

Lessons A. Baril N. Druet MJ. What is Professionalism in Occupational Therapy? A Concept Analysis. *Gen J Occup Ther*. 2021;38(2):117-130. doi:10.1177/002081174211994377
Sara-Maria Niemela, Olli Rintala, Sanna Keskinen, Jarmo Juntunen & Pirkko Kaakinen (2022) Job Satisfaction among Occupational Therapy Practitioners: A Systematic Review of Quantitative Studies, *Occupational Therapy in Health Care*, 36(1), 1-28, DOI: 10.1080/09738652.2021.1964146

振り返りの手段として、クリニカルリーズニング評価尺度（A-CROTとSA-CROT）が利用できる

A-CROTとSA-CROTの利用により以下が可能となる。

- ・学習者が自らのクリニカルリーズニングを振り返り、問題や強みを知る。
- ・教育者が、学習者のクリニカルリーズニングの問題や強みを知る。
- ・学習者と教育者が、互いのクリニカルリーズニングのとらえ方を知る。
- ・作業療法教育の流れの中で、学習者自身や教育者がクリニカルリーズニングに対する学習者のとらえ方の変化を測定する。

丸山祥 敬告、神保清子 他、作業療法のクリニカルリーズニング実践の発展、作業療法教育の発展、作業療法 42(3)
丸山祥 敬告、丸山祥 敬告、作業療法のクリニカルリーズニング実践の発展、作業療法教育の発展、作業療法 42(3)
丸山祥 敬告、丸山祥 敬告、作業療法のクリニカルリーズニング実践の発展、作業療法教育の発展、作業療法 42(3)
丸山祥 敬告、丸山祥 敬告、作業療法のクリニカルリーズニング実践の発展、作業療法教育の発展、作業療法 42(3)



— Zoomでの様子 —

40周年記念事業が 間もなく終わります

今までの活動や歴史を振り返ることで、作業療法士としての活動や県士会活動について考えたり、これから先の未来に向けてやりたいことを思い描いたり…皆様にとって一つでも心に残る 40 周年であったならば幸いです。

40 周年記念事業プロジェクトチームリーダー
副会長 田中 ゆかり



ロゴマークをしよう！

40周年を記念して作成した県士会オリジナルのロゴマーク、名刺にもzoomの背景にもぜひ活用してください。さあ、今すぐダウンロード！

40周年記念事業

40周年記念誌完成間近！

各方面からの祝いメッセージや、会員のページもあります。県士会の歴史にも是非触れてみてください。間もなく特設ページに掲載！

県士会ホームページに 特設ページ開設！ 永久保存版

40周年記念事業の集大成。未来へつなぐ様々な企画を詰めこんだ特設ページへGo！

40周年特設サイト — <https://kana-ot.jp/wpc/40th/>

事務局からの お願い

- **届出内容を変更される方** 住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール (kaiin@kana-ot.jp) にてご提出願います。(随時受付)
- **休会される方** 来年度に休会予定の方は、前年の**12月31日**(末日消印有効)までに ①『休会届』と ②『証明書』を郵送でご提出願います (FAX不可)。
- **退会される方** 年度内に退会予定の方は、**3月15日**までに『退会届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール (kaiin@kana-ot.jp) にてご提出願います (上記日必着)。

届出書類は、神奈川県作業療法士会ホームページ公式ウェブサイトのINDEXより、ダウンロード可能です。なお期日までに提出いただけない場合は、次年度の会費が自動引落としとなり、返金を致しかねます。

編集 後記

少しずつ日が短くなり、朝夕はしだいに涼しさを感じるようになりました。みなさまが今号を読まれる頃にはすっかり秋でしょうか。9月に第56回日本作業療法学会が開催されました。京都で開催だったので是非とも現地へ行きたかったですが、新型コロナが増えてしまったのでオンライン参加となりました。開催前に編集後記を書いているので、これからLIVE配信を見るのが楽しみです、その後のオンデマンド配信も待ち遠しいです。オンデマンド配信はかなりの数になりそうなので、興味があるものを全て視聴するまで時間がかかりそうです。現地で直に発表を聞けないのは残念ですが、ゆっくりと自分のペースで視聴できるのもありがたいですね。(まつ)

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース 〈217号〉2022年10月発行(年3回発行)

発行責任者 神保 武則
編集責任者 佐藤 隼
編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)
山岡 洸(湘南慶育病院)／佐藤 愛(悠の木株式会社)／安田 優子(横浜旭中央総合病院)
丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)／松井 洋鷹(泌尿総合病院)
碓屋 瑛理(佐藤病院)／岩居 洋輝(佐藤病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所
事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301 号
TEL/FAX : 045-663-5997
月火水木金 10:00~15:00
メールアドレス : jimu@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト
<https://kana-ot.jp> ➡ 作業療法 神奈川 検索
Facebook <https://www.facebook.com/kaotwebkan>
Twitter <https://twitter.com/kaotwebkan>

